

学生チーム紹介

群馬県・群馬大学「多文化共生研究プロジェクト」には、たくさんの学生有志が参加しています。この活動にひとたび足を踏み入れると、なぜかみんなはまうていってしまいます。それは自分たちが、〈多文化共生〉という大きな夢の実現に、深く関わっていると実感できるからなのかもしれません。そんな学生の間には、得意分野や興味・関心を共有するいくつかのチームが生まれています。現在活躍中の5つのチームを紹介します。

「エンフェルマリア」

将来、医師や看護師や保健師をめざす学生が集結したチームです。在日外国人学校健診のサポートや、「からだところの健康相談会」での自作パネルによる食生活のアドバイスなどを行いました。食や生活の習慣が文化的に異なることを念頭に、医療サポートのあり方を探っています。



「OKstars」

星と太陽は北半球からと南半球からとでは、どのように見えるのだろう、という問いから交流活動を企画しています。「星と太陽」体験学習では、天文学を愛する学生たちの熱い思いまでが子どもたちに伝わったようでした。本紙の名称Orionの産みの親(!?)でもあります。



「フレンドシップ」



言語や文化など、生まれ育った環境の異なる子どもたちが一緒に学ぶ学級で、実りのある学びの場を創れる教師になりたい、と願う教育学部の学生たちのチームです。大泉町の小中学校の先生方のご指導を頂きながら「言葉に頼り過ぎない教え方の開発」を試みたり、「放課後学習サポート教室」を開いたりなど、教育面でのサポートを行っています。県内外のブラジル学校4校を巡回訪問して、前橋市のだんべえ踊りを伝える活動も盛況でした。

「実行ボランティア」



受付・通訳・翻訳・力仕事など、事業の準備から片づけまでの段取りを組み、本番は裏方に徹して活動を支えます。「参加するすべての人たちが気持ちよく・存分に活動できるように」をモットーに、目に見えない心配りをしながら協働の輪を築こうとするメンバーたち。その後姿に、学生スタッフの尊敬と信頼が集まります(もちろん、前から見てもカッコイイ！)。

「小鳥遊(たかなし)」



共生という大きな夢に向かって頑張っているみんなの活動を、多くの人に知ってもらいたい！そんな活動者みんなの想いを、メディアの面からサポートしている学生チームです。協働の姿を活動紹介CD、ホームページ、そして広報紙によって、広くみなさまにお伝えします。

平成16年度も、群馬県・群馬大学「多文化共生研究プロジェクト」(PCDC) 学生チームは、学生の視点で、学部の垣根を越えて多文化共生社会をめざす活動を展開していきます。他大学の学生のみなさんの参加也大歓迎です。地域のみなさま、私たちにお役にたてることがありましたら、下記連絡先までご一報下さい。

編集後記

まずはOrionをここまで読んでいただいたみなさま、ありがとうございます。編集スタッフ一同、創刊号ということで四苦八苦しながらも、気合いを入れつつ取り組みました。

今回は今までの活動を紹介する内容となりました。編集する中での新たな発見も多く、改めて本プロジェクトの意義に気付かされました。それと同時に、文章を書くにあたり、ことばの難しさも実感しました。この経験を今後のOrion制作に活かしていきたいと思っています。

みなさまがこのOrionを読んでいる頃には、私たちは次号の取材に明け暮れていることでしょう。ご期待下さい！

(チーム「小鳥遊」広報紙班：尾久・栗原・瀬谷・福田)

発行元：群馬県・群馬大学「多文化共生研究プロジェクト」
編集担当：チーム「小鳥遊」

前橋市荒牧町四丁目2番地
群馬大学地域連携推進室 結城研究室

Tel/Fax 027-220-7382(ダイヤルイン)

e-mail pcdc@edu.gunma-u.ac.jp

☆多文化共生研究プロジェクトホームページ☆

<http://tabunka.jimu.gunma-u.ac.jp/top.html>

ご意見・ご感想などございましたら、上記までお気軽にご連絡下さい。



群馬県・群馬大学
「多文化共生研究プロジェクト」
広報紙「オリオン」
創刊号
2004年3月31日発行

協働の星「Orion」の誕生にあたって

群馬県・群馬大学「多文化共生研究プロジェクト」

代表 結城 恵

(群馬大学地域連携推進室職員・教育学部助教授)



群馬県には伊勢崎市・太田市・大泉町など、南米日系人の集住化が全国的にみても顕著に進んでいる地域があります。群馬県・群馬大学「多文化共生研究プロジェクト」は、こうした地域の要請に応え、多文化共生社会の構築に求められる対応策とそれを実現するモデル事業の企画・実施をめざして、平成14年度に誕生しました。

プロジェクトを推進してほぼ2年がたった現在、多文化共生社会は〈協働〉の営みがないと実現し得ない、ということを私たちは実感しています。このプロジェクトも、国籍・年齢・所属・分野を超えたたくさんの方々の高い志と知恵とネットワークに支えられて参りました。この営みは、事業の舞台裏にあつてほとんど光があたりませんが、多文化共生社会の実現の基礎になる最も大切なものだと思います。

先日、プロジェクトの事業で、ブラジル学校・ペルー学校の児童生徒のみなさんとプラネタリウムを観る機会がありました。その時、オリオン座が南半球でも北半球でも見られるということを知りました。一つひとつの星が、それぞれに持つ輝きでお互いを照らしながら、世界中の天空に燦然と輝いている美しいオリオン座。私たちプロジェクト関係者に、オリオン座は、〈協働の星〉として深い感動を与えました。

広報紙Orionは、多文化共生事業の舞台裏に光をあてて、PCDC(多文化共生研究プロジェクトスタッフ)の学生チームのひとつ「小鳥遊(たかなし)」が制作にあたります。協働の輪が広がり、多文化共生社会が実現するようにと祈りを込めて、みなさまにこの広報紙をお届けします。暖かい応援をよろしくお願いします。

広報紙「Orion」を支える3つの光

Orionは、普段は光のあたらない活動の「舞台裏」を描きます。みなさまと共生のありかたを考えたいと思います。

☆届けたい、協働の声！

年齢も立場も違うさまざまな人たちが、同じプロジェクトに関わっています。活動を通してそれぞれが感じた、ありのままの声をお届けします。

☆描きたい、協働の姿！

私たちは、プロジェクトで展開する事業のプロセスを描きます。そして協働の姿をみなさまにお伝えします。

☆広げたい、協働の輪！

地域に住む外国籍の方々に、多言語(※)で私たちの活動をお伝えします。ともに考え、活動の輪を広げていきたいと思っています。

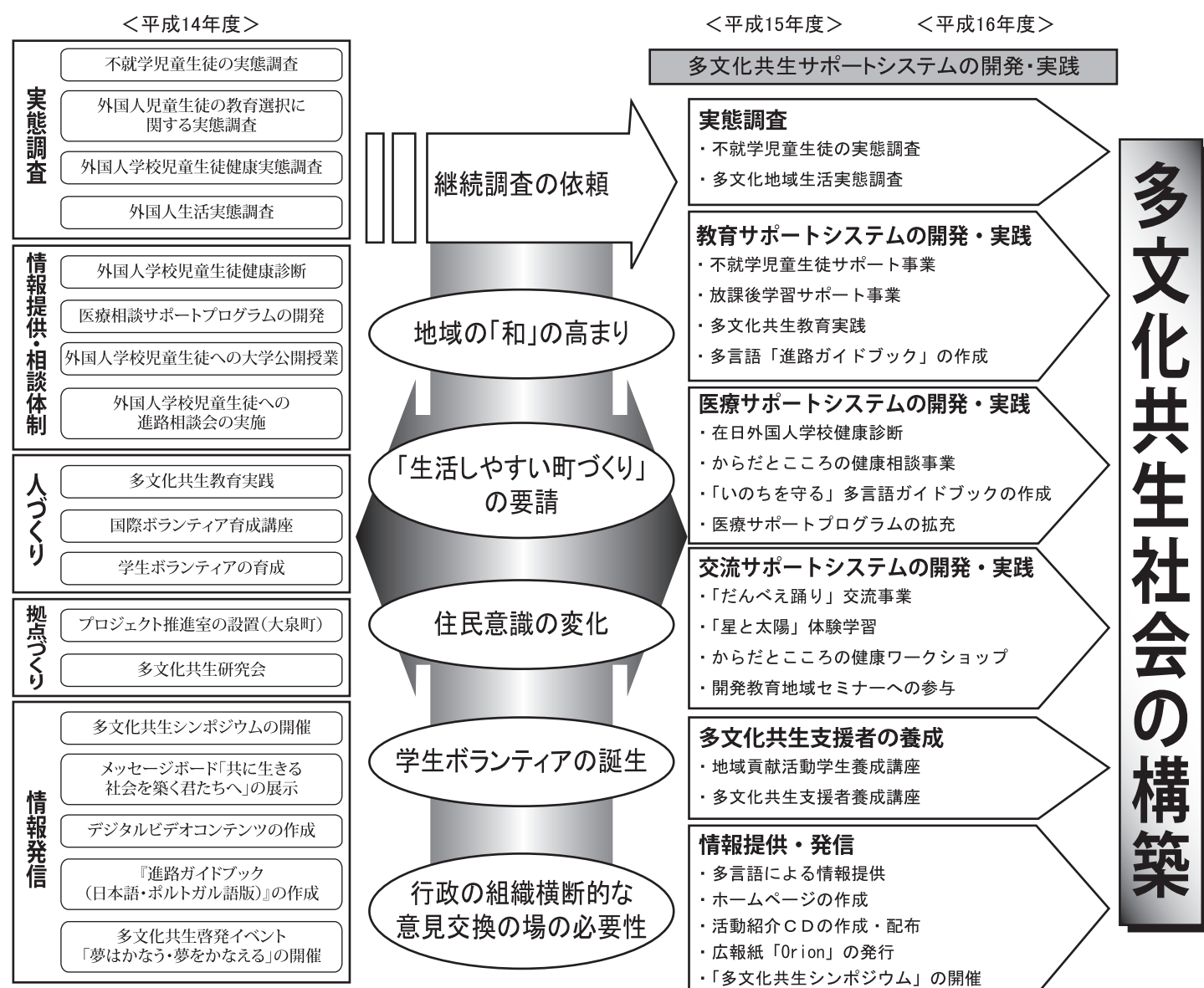
Orionはさまざまな人の協力・支えがあつて出来あがる広報紙です。多くの人に読まれ、愛される広報紙にするよう努力していきます。

※現段階では、日本語・ポルトガル語・スペイン語の3言語で発行します。

群馬県・群馬大学 「多文化共生研究プロジェクト」の概要

このプロジェクトの目的は、外国人が集住する地域（以下、多文化地域と呼ぶ）の要請に応え、共生社会を構築するために求められる具体策とそれを実現するモデル事業を、群馬大学と群馬県ならびに伊勢崎市・太田市・大泉町とが一体となって企画・実施することにあります。多文化地域における外国人住民の教育、保健・医療、行政サービス面などの不安を解消し、地域社会・経済の発展に対して、外国人住民も積極的に参画できるようにサポートを行い、群馬県内における産業界の活性化と地域住民の豊かな共生社会の構築をめざします。

平成14年度は、〈子どもの教育と医療〉をテーマに18の事業を展開しました。その成果に基づき、平成15年度には下図に示すように、実態調査に加え、教育サポート、医療サポート、交流サポートの3つのサポートシステムづくりを進めるとともに、これらの活動に参加できる優れた人材を育成する多文化共生支援者の養成に取り組みました。さらに、情報提供・発信を積極的に展開して、本プロジェクトの成果を県内外の多文化地域に参考事例として発信しました。平成16年度には、これまでの2年間の取り組みを充実させるとともに、災害や事故など緊急事態に対応するシステムづくりを展開する予定です。



これまでの事業の紹介

本プロジェクトのこれまでの取り組みを簡単に紹介します。

☆ 実態調査

不就学児童生徒の実態についての調査を、大泉町との連携を取って実施しています。平成14年度より継続して行い、14年度・15年度の不就学児童生徒数、ならびに不就学に至る要因を調査するとともに、不就学をゼロにするための具体策を「第4回多文化共生シンポジウム」で発表しました。

☆ 教育サポート事業

大泉町教育委員会との連携のもと、不就学児童生徒の家庭を訪問して「進路ガイドブック」の配布・進路情報の提供を行い、小中学校に開設された放課後相談室・放課後学習サポート教室への学生派遣を行いました。また、町教育委員会と共催で多文化共生教育実践をめざす「教員研修連続ワークショップ」を開催しました。

☆ 医療サポート事業

群馬県内の在日外国人学校に通い、定期健康診断を受ける機会がない児童生徒に対して健康診断を実施し、平成14年度には156人の、平成15年度には505人の児童生徒が受診しました。この診断の結果、医療や指導が必要と判定された児童生徒の保護者に対して、「からだところの健康相談会」を実施し、医師等の専門家による結果説明と診察・生活指導を行いました。



▲「からだところの健康相談会」より

☆ 交流サポート事業

年齢・国籍を超えた交流活動として、外国人学校の子どもたちと一緒に「『だんべえ踊り』交流」「『星と太陽』体験学習」「サルサ講習」「カポエイラ講習」「食育カルタ」「パラシュートあそび」を体験しました。また、国際協力機構（JICA）との連携のもと「開発教育地域セミナー in ぐんま」の企画・運営に参画しました。



▲だんべえ踊り交流
(ブラジル学校へベッカにて)

☆ 多文化共生支援者の養成

このプロジェクトでは、共生マインドをもって多文化地域で活躍する人材の育成にも力を入れています。学生スタッフの要望に基づき、「国際ボランティア育成講座」「地域貢献活動学生養成講座」「多文化共生支援者養成講座」などを企画・実施してきました。

☆ 情報提供・発信

群馬県内のくらし・教育・医療に関する情報を多言語で提供しています。さらに、ホームページの開設や活動紹介CDの作成・配布など、地域に情報を発信し、プロジェクトの成果を公開しています。また、4回に渡り「多文化共生シンポジウム」を開催しました。

本紙では、次回から一つひとつの事業にフォーカスをあて、活動報告とその舞台裏をみなさまに紹介します。ご期待下さい。